

2018年度 後期 センター科目概要

日英語の音声の文法とその仕組み The Phonological Systems of Japanese and English	
科目提供大学名	神戸女学院大学
担当教員	立石 浩一（文学部英文学科教授）
単位数	2単位
募集定員	54名
開講学期	後期1時限（10:50～12:20） 火曜日（9月25日～1月15日、12月25日～1月7日は冬休み期間）
成績評価	宿題およびレポート（テーマは与える）
テキスト	菅原真理子（編）「朝倉日英語対照言語学シリーズ3 音韻論」（朝倉書店）
参考文献	上記テキスト内に参考文献が紹介されているので、必要に応じて参照されたい。
授業以外の学習方法	教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。それに加えて、宿題を出すので、これを必ず行うこと。
その他の特記事項	特になし
講義概要	20世紀に飛躍的な発展を見せ、21世紀に入り「言語とは何か？」という問いに対する科学的探求に本格的に一步を踏み出している現代言語学において、音韻（音声の文法）の研究は、その発展のきっかけとなり、なおかつ現代においても新たな理論的研究の題材として非常に豊かな分野である。その音韻研究の発展において、日英語の音韻現象がどのように扱われており、両言語はどう共通し、どう違うのかを、現代音韻論の発展の紹介と並行しつつ、対照的に紹介する。具体的には、音節、アクセント、単語の仕組み、文法と音韻の関係（イントネーションなど）について比較検討する。
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母音と子音 2. 音素 3. 音韻素性 4. 日本語の音節とモーラ 5. 英語の音節とモーラ 6. アクセントとストレス 7. 日本語のアクセント 8. 英語のストレス 9. 日英語のアクセント・ストレスの比較 10. 接辞付加に伴う音韻変化 11. 複合語と主要部 12. 英語の韻律構造 13. 日英語の韻律構造の比較 14. 最適性理論とは 15. 最適性理論による音韻分析の実際